橋南地区将来構想（基本計画）

平成 31 年 1 月

橋南まちづくり委員会

2019.1.15

【 目　　次 】

1 中心拠点「橋南」のまちづくりをめざします【基本指針】……1

2 構想の対象期間……1

3 キャッチフレーズ…… 1

4 めざす3つの柱……1

めざす柱 1 歩いて暮らせる街をめざして

橋南の今……2

克服すべき課題…… 2

私達のゆめ……3

ゆめの実現に向けて……4

めざす柱 2 人と人のつながりが強い街をめざして

橋南の今……6

克服すべき課題…… 6

私達のゆめ……7

ゆめの実現に向けて……8

めざす柱 3 伝統と文化の中心地をめざして

橋南の今…… 10

克服すべき課題……10

私達のゆめ……11

ゆめの実現に向けて…… 12

1 中心拠点「橋南」のまちづくりをめざします

○ リニア時代を迎えるからこそ、魅力的な都市には顔としての中心が必要です。

○ 丘の上は、飯田下伊那の中心地として「歴史」「文化」「都市機能」の中心拠点を担い続けてきました。これからもその役割は変わりません。

○ コンパクトシティを見据えたとき、都市の中心は、これまでの蓄積を活かし、魅力が凝縮された街を形成していくことが必要となります。

○ 街の基盤となる心優しいコミュニティが、橋南に住みたいという誇りを生み出し、美しい街を創り出し、再び街に魅力を取り戻すことで、賑わいの回復をめざします。

○ 中心市街地の拠点機能は、橋南に住む人や事業者が誇りを持って担ってきました。この歴史を再確認し、これからも誇りを持ち続けます。

○ これからは丘の上５地区を中心地として捉え、５地区が連携して中心拠点としての「丘の上」を形成していくことも必要となります。

○ リニア開通を見据え、中心拠点である市街地と、交通拠点であるリニア駅周辺の連結を強める新交通システムの導入をめざします。

2 将来構想の対象期間

2019 年から 2028 年までの 10 年間

５年で中間総括し見直しを行います

3 キャッチフレーズ

『中心市街地・橋南は 城下町の歴史や文化・りんご並木とともに 生き続ける』

4 橋南地区がめざす３つの柱

1 歩いて暮らせる街をめざして

～ 市街地の魅力でチャレンジできる街 ～

2 人と人のつながりが強い街をめざして

～ 自治の力で誰もが暮らしやすい街 ～

3 伝統と文化の中心地をめざして

～ 彩り豊かな城下町とりんご並木の街 ～

次ページから「めざす３つの柱」の内容を掲載します

めざす柱１　歩いて暮らせる街をめざして
～ 市街地の魅力でチャレンジできる街 ～

橋南の今

◆橋南の居住者が、平成元年からの 30 年間で 40%以上減少しました。居住者の減少は、商店街の衰退と、空き家、空き店舗の増加を生んでいます。飯田市の顔である中心市街地が、他のどこの地区と比べても誇れる街であるよう、住む人をどう増やすかを考える必要があります。

◆子育て世代を中心とした若者には、橋南に住んでみたいという思いがあります。そうしたニーズを的確に捉えて移住のきっかけづくりを行い、橋南への定住に繋げていく必要があります。

◆中心地にあったコンビニや大型スーパーの撤退が相次ぎ、だんだんと日々の買い物に困るようになり、「なんでも歩いて用が足せる」という橋南最大の魅力が衰退してきています。これは、橋南だけでなく、橋北、東野地区でも共通の課題となっています。

◆店舗所有者が高齢化して商売ができなかったり、後継者がいないことから店舗を売りたいと考えたりと様々な事情で空き店舗が増加しています。

◆若い世代を中心に、店舗を借りて市街地でビジネスを展開したいというニーズがあります。古くても歴史ある建物に憧れがあり、省スペースで小さな事業から起業したいという思いをどのように迎え入れ、場を提供し、事業展開を支援できるかを考える必要があります。新しいビジネスへのチャレンジには、店舗所有者の理解が必要です。

◆中心市街地は衣食住が満たされる街です。これからは、性格が異なるエリアごとに色分け（ゾーニング）を行い、エリアの特色にあった再開発を継続していく必要があります。

◆橋南の商店街は自然発生でできたものです。そのため、個店が魅力や力をつけることで、街として発展していくとともに、異業種の店舗がコラボレーションすることで新たな魅力を引き出すことが必要になっています。

◆若い世代が減少する中で、若者が集まって交流できる場が少なく、世代別に集まる場を作る工夫が必要となっています。「若者がチャレンジできる街」にすることで、若者が集まる街へと変えていく必要があります。

◆都会にある企業が橋南へ進出してもらうには、橋南地区と交流してくれる企業人が必要です。

克服すべき課題

◆空き家・空き店舗の活用　◆若者がチャレンジできるまち　◆都市型住宅の提供

◆個性的な商店街の形成と店舗間交流の促進　◆都市からの企業誘致

◆充実した日々の暮らしができる街　◆若者、嫁、子育て世代の移住定住

私達のゆめ

【若者がチャレンジできるまち…空き家、空き店舗の活用促進】

・「商人スピリット」(モノやサービスに付加価値をつけて販売することで、利益を得て生活していくという不屈の精神)を失わずに、自分自身で商売ができなくなったとしても、やる気ある若者へ空き店舗を積極的に貸し出すなど、今こそ底力を発揮する時です。
・空き家、空き店舗の所有者と住民が協力して、新たな店舗や住居を整備する再開発を行い、事務所や店舗を誘致するほか、空き店舗をそのまま活用して、生鮮品や日用品、個性ある人気商品を取り扱う店舗をつくり、活気ある「歩いて買い物が楽しめる商店街」を取り戻せるよう、若者世代を中心とした起業にチャレンジできる街にします。
・橋南に住む若者だけでなく、橋南で働く若者も一緒に交流できる場をつくり、今まで地域行事に参加していなかった人が、楽しく集まれる街にします。

【都市型住宅の提供】

・都市型住宅を整備するともに、再開発で都市型の空間とオフィスを整備し、ネット社会に対応した働く場所をつくります。
・飯田駅を中心とした空間へ、文化施設や商業空間を念頭にした再開発を行い、ホテル事業者や飲食店と連携して文化事業を楽しむ活動を行います。

【個性的な商店街と店舗間交流】

・製造、販売、PR を一連として捉え、街の新たな特産品や魅力ある商品の開発を行います。
・街へ訪れる人のニーズを的確にとらえ、イベントから買い物へと誘導する仕組みをつくります。
・商店街のほか、金融機関や商工会議所、各種事業所、商業や観光に関連した行政施設等があり、すべてが「まちづくりの仲間」として、立場や特性を生かして連携します。
・個性的な商店や飲食店が立ち並ぶ街にして、日常的に人でにぎわうようにします。
・街の中の機能や性格を色分けし、独特の個性ある魅力的なエリアをつくります。

【都市からの企業誘致】

・働く場と合わせて住む場も一緒に創り出すことで、都会の企業が働いてみたいと思う街にします。

【充実した日々の生活】

・コンパクトシティ化を進め、日々の買い物や医療介護が充実した安心して住める街をつくります。
・防犯カメラや街路灯を設置して、治安の優れた街をつくります。
・バスターミナル等の交通拠点を整備して、循環バスやタクシーなど多様な移動手段をつくります。

【子育て世代の移住、定住】

・都市からの人と仕事の流れをつくるよう、テレワーク、サテライトオフィスの機能を整備して、いったんは離れた若者や子育て世代が帰ってこられる環境をつくります。

ゆめの実現に向けて

1 空き家、空き店舗を活用したチャレンジを支援する

・低廉な空き店舗で事業が開始できる「チャレンジの街」の仕組みをつくります。

・空き家、空き店舗の実態調査を行い、活用につなげるマップをつくります。

・空き店舗を活用した起業にチャレンジできる街として、チャレンジしたい事業者や若者を惹きつけられるような支援体制をつくり、都市部からの若者呼び込みへとつなげ、商店街の継続へとつないでいきます。

・魅力ある商品、魅力あるまちづくり、魅力ある暮らしを提案できる街として、住民、事業者、商店街が連携して取り組みます。

・飯田市内にある企業が飯田駅前商業跡地を活用した創業を支援・推進します。

2 都市型集合住宅を中心とした再開発

・都市型住宅と併せてオフィス空間を整備するよう、再開発を検討します。

・再開発による居住空間、オフィス空間と同時に、既にある経済活動の基盤をなす都市機能を一括して活用することで、利便性ある暮らしと働く場所を同時提供します。

3 民間力を活用した個性ある街区の形成

・住民同士が協力して地域外から専門店やオフィスを誘致し、そこで働く人に橋南で住んでもらう仕組みをつくります。

・街全体のデザインを決めたのち、新たな個性的役割を区域ごとに分担し、区域別に「再開発」「空き店舗促進」「広場や並木を活用したソフト事業」「都市企業の誘致」等が促進できるよう、区域色分け(ゾーニング)を行います。

4 リニア開業を見据えた JR 飯田駅を中心とする再開発【飯田 5 地区共通課題】

・JR 飯田駅を中心に配備されている公共交通を利用すると、JR 飯田線や、乗合バス、乗合タクシーなど公共交通の結節点であることがわかります。リニア開業を見据えたとき、リニア長野県駅との結節やさらなる利便性の強化が求められます。そのためには、橋南住民が公共交通を積極的に利用することで、全ての飯田市民への公共交通のさらなる利用を促し、みんなで「歩いて暮らせる場所」を楽しめるよう、駅周辺の商店や施設の協力を得て、公共交通を活用しながら交流の場をつくり出していきます。

・文化施設を中心に商業施設と交通拠点を一体的に整備して、多様な交通手段を備えた文化事業を楽しめる場所となる整備を推進する活動を実施します。

5 若者、子育て世代を意識した交流の促進

・いったんは橋南を離れていった若者が、嫁・夫や子（孫）を連れて戻ってくるように、都市部からの人の流れをつくり、関係人口、交流人口を増加させ、定住に向けた働ける機能と暮らす環境をつくります。

めざす柱２　人と人のつながりが強い街をめざして
～ 自治の力で誰もが暮らしやすい街 ～

橋南の今

◆公民館事業に参加する人がいつも限られた人に偏ってきています。地区回覧で発信していますが、多くの人は知る機会が少ないため、人伝に知ることが多く、つながりがある人同士の参加となっています。

◆公民館施設は、1 階に会議室がないことや調理ができる部屋もないため、魅力的な施設となっておらず、その結果、使用の向上につながっていません。

◆狭いエリアに 41 の自治会があり、人口減少や高齢世帯の増加に伴って、役員の担い手がおらず、昼夜とも会合や自治会活動への出席が難しい状況となってきています。

◆大火や 36 災害を経験していますが、ここ数年は大きな災害がなく、防災の意識が薄れかけています。有事の際、素早い避難行動が行える状況ではありません。

◆消防団員の確保は、地区の安全・安心に欠かせませんが、現在の団員数は実働 10 名程度となっており、地域全体で消防団員の確保を考える必要があります。

◆「ゆいぎっず」という飯田下伊那圏で最も充実した子どもと家庭の支援施設がありますが、地域外から多くの利用者がある一方で、地区内での認知度は低く、利用率が低くなっています。

◆核家族が増えていることから、地域全体で子ども達を見守り育てるという、子育てを支える姿勢が重要です。地域の子どもが多く参加している事業は既にありますが、講師となる大人が高齢化しており、講師の拡充が課題となっています。これからは子どもだけでなく、地域全体が参加して懇親できるように展開する必要があります。

◆高齢者は「地域や社会から守ってもらう」と考えになかなかなり得ないため、他から干渉されることを好んでない人が多くいます。そこで、これまで培ってきたスキルを如何なく発揮してもらい、地域の見守り役として地域へ出てもらうことで、いつまでも現役として活躍してもらう必要があります。

◆歩いて行ける場所にあった買い物場所がなくなったり、体力の衰えで歩けなくなったりして、買い物弱者が急増しています。

◆景観に配慮した歩道が増えている一方で、車いすやベビーカーにとっては、通行しにくい個所が増えてきました。だれもが安心して通行できる区域が必要です。

克服すべき課題

◆誰もが参加する公民館活動　◆自治会組織の再編　◆防災意識の高いまち

◆子育て環境の充実　◆高齢者が安心して暮らせる仕組み

◆障がいを持った人が安心して暮らせる仕組み

私達のゆめ

【公民館活動】

・公民館活動を通じて地域の絆を深めるとともにチャレンジする心を養うことで、公民館での学びを活かしたまちづくりを目指します。
・子どもから大人まで誰もが参加でき、地域に根差した公民館活動を充実させます。そのために、公民館施設を整備して、幼児から高齢者まで気軽に使えるようにします。

【自治会組織の再編】

・ブロック代表制を見直し、昔からのつながりを大切にした新たな自治組織を編成します。
・若い人や女性、子ども、あらゆる世代が意見を言える場づくり、空気づくりをします。
・古くからある商店と住人とのつながりを深め、今ある企業や飲食店、行政を含めたあらゆる業種が協力してまちをつくります。

【防災意識】

・災害時の初期行動を確立するため自主防災組織を強化し、参加型防災訓練を実施して防災力を高め、防災を意識した人のつながりを深めます。
・消防団員の確保を地域全体の問題と捉え、同年代との対話を通じた団員勧誘を行い、地域の安全、安心につなげていきます。

【子ども、子育て】

・子どもたちが、のびのび育つまちをつくります。
・橋南の住民誰もが、いつでもどこでも子どもに関われるまちにします。そうすることで、大きくなっても橋南に愛着を持ち、再び帰ってきたいと思う子どもが増えるよう、地域全体で子育てをします。
・保育園、小学校、中学校が連携した質の高い教育が受けられる街をつくります。
・働く親を支える学童施設を整備するとともに、精神的に安定した子育て支援を行い、安心できる子育て環境を整えます。
・交通安全意識を高めるとともに通学路を再点検し、安心して学校へ通えるまちをつくります。

【高齢者】

・高齢者が自立している生涯現役のまちをつくり、いつまでも心豊かに暮らせるようにします。
・高齢者が子どもと一緒に活躍でき、地域の見守り役となる街をつくります。
・丘の上 5 地区が連携した事業を展開して、高齢者の交流を促進します。
・いつまでも歩いて暮らせる街の実現に向けて、交通安全意識の高揚とともに、買い物を中心とした日々の生活に困らない街をつくります。

【障がいを持った人】

・障がいを持った人が自立している生涯現役のまちをつくります。
・車いすでも通行しやすい歩道を整備して、誰もが出歩ける区域をつくります。

ゆめの実現に向けて

1 公民館を含めた地区活動の楽しさを伝える

・これまでの活動から、住民それぞれの得意分野を見つけて、その人が地域で活躍できる場を地域みんなで考えます。

・足を運びやすい雰囲気づくりで気軽に参加できるようにし、どの世代とも繋がれるように、まずは「口コミ」から始めます。

・住民がどんなテーマでどのようなことをしたいかを意見集約し、それに対して公民館はどう対処できるのかを発信することで、公民館活動の活性化を図ります。

2 本当に必要とされる公民館事業や施設のあり方を考える

・一般の人をはじめ、子ども、高齢者、障がいを持った人等の多様な住民が、誰とでも触れ合える場となるように、新しい事業（例：男の料理教室）も模索しながら公民館のあり方を検討します。

3 自治会組織の再編による組織力強化

・若者や女性といった「新たな知恵・力」がまちづくりに参画する組織となるよう、青年団体や女性団体と連携します。

・昔ながらの深いつながり（祭り事や氏子等）よる班区の編成、設置を行います。

・住民と事業者の力を合わせた共同事業により、まちづくりを深化させます。

4 いざという時のために日ごろから防災を意識できる人になれる自主防災組織

・「まさか」を常日頃から意識できるよう、防災の日だけでなく年間を通して定期的な防災訓練を行い、常に災害を自分事として捉える人、町内、自治会をつくります。

5 消防団員の増強と消防団活動環境の整備

・消防団員確保は、防災に欠かせない課題として捉え、地域全体で増強に取り組みます。

・消防団詰所の移転改築を視野に、併せて機関車の移転検討を行い、環境を整備します。

・橋南地区内にある企業（市役所や合同庁舎を含む）に、消防活動を支援・補助してもらえるよう連携を図ります。

6 地域の子育てに みんなで関わる仕組みづくり

・高齢者には、これまで培ってきたスキルを発揮してもらうよう、放課後子ども教室で郷土の歴史や芸能、知恵などを教える先生となることで、「社会から守られる立場」から、生きがいを持って自立できるよう、いつまでも充実した生活を送ることができる仕組みをつくります。

・子ども達へ橋南の伝統文化や良さを伝えられるよう、大人が橋南の文化を学び、子供たちに体験から学びを与えられるプログラムをつくります。

・この仕組みにより、大人から子どもへ自然と積極的な挨拶ができるようになり、子どもと高齢者が顔見知りとなることで、大人が地域の見守り役となります。

7 子ども支援施設を活用した子育て環境整備

・動物園や図書館と連携した子育て支援事業を展開し、子どもの集まる場をつくります。

・児童クラブやゆいきっずの現状を把握し、子ども達の安心を守る環境の充実とサポート体制をつくります。併せて、子育て世帯にとって精神的に安定した環境となる支援体制をつくります。

8 丘の上5地区が連携した高齢者、障害をもった人の交流

・各地区単位では小規模となるため、５地区が集まり、高齢者や障がいを持った人のスポーツなどの交流の場をつくります。

9 買い物支援自動車の本格運行

・「歩いて買い物する人」の足となるよう、電動小型バス「プッチー」をはじめ、将来的には自動運行自動車も視野に入れた買い物支援自動車について、運転手や運行計画、料金体系等、日々の生活の支援として無理のない運用を考えていきます。

めざす柱３　伝統と文化の中心地をめざして
～ 彩り豊かな城下町とりんご並木の街 ～

橋南の今

◆飯田東中学校の生徒数が減少して、りんご並木の手入れが中学生だけでは難しくなっています。もっと多くの住民が、りんご並木と関わっていく必要があります。

◆りんご並木の伝統を重んじ意識するあまり、街の財産、街のシンボルという意識が低下しています。「おもてなし精神」を忘れずに、訪れた人を迎える心を取り戻していく必要があります。

◆日常生活をしていると、橋南にある既存ストックが大きな財産であることに気づきません。貴重な街の財産として、訪れた人がどこからきて、どんなニーズがあるのかを捉える必要があります。

◆城下町であった遺構が失われつつあるため、守り、伝えていくことで地域の誇りを取り戻していく必要があります。

◆情報発信の手段が多様化しており、あらゆる手段をうまく使いこなして情報発信する必要があります。橋南には、そういった発信に長けた人がいるので、連携して発信を推進する必要があります。

◆図書館やプラネタリウムのほか、映画館が 2 箇所もあり、優れた文化施設が集中していることは、誇れることです。

◆飯田(丘の上)５地区では共通課題として、JR 飯田駅を中心とした再開発により、文化施設と関連施設の設置が必要という認識の中、設置要望をしています。

◆古くから伝わる祭りは、団結による地域のつながりや、世代間の思いやり、地域コミュニティを大切に育ててきました。これからも途切れることなく、子ども達へと残していきたい伝統ですが、人集めと資金面で負担が大きくなってきています。

◆お練りまつりを筆頭に、橋南地区で開催されている祭り文化が、飯田下伊那地域の伝統文化をけん引しています。今後も中心的役割を果たしていく必要がありますが、人と資金面で困難な状況に直面しています。

◆これまで 40 年にわたり、飯田市は「人形劇のまち いいだ」としてプロモーションしており、このキーワードを活かしたまちづくりを継続していく必要があります。人形劇団はもちろん、製作会社、作家、個人などを関連付け、まちづくりにつなげていく必要があります。

克服すべき課題

◆りんご並木の活用

◆ストック財産と城下町の歴史を活用した街の回遊性

◆街や店舗の魅力発信

◆文化交流機能の強化

◆結びつきを通じた祭りの伝承と活用

◆「人形劇のまち いいだ」のまちづくり

私達のゆめ

【りんご並木の活用】

・飯田市のシンボルであるりんご並木を、東中生徒と住民が一緒になって守り育てます。
・りんご並木を中心に、多様な機能と主体が集積した職、暮らし、遊びの融合拠点をつくります。
・ビルドバックベターの精神をまちづくりに生かし、つないでいきます。
・東中卒業生や観光客が、りんご並木の作業などに関わり続けることで、橋南との関わりある交流人口を増やしていきます。

【既存ストックを財産とした回遊性の向上】

・りんご並木を拠点に、桜並木、中央公園、動物園、美術博物館、赤門等を一体的に捉え、魅力ある交流ステージをつくります。
・住んでいる人が、橋南にある既存施設を財産として捉え、生かす方法を考えます。
・地区内にある既存施設（財産）を落とし込んだ楽しい地図を作成して、それらを紹介する案内人を養成します。他の施設と連携した案内人の拠点場所をつくり、一体感あるおもてなしを行います。

【城下町の文化活用】

・失われつつある遺構を大切に保存し、城下町の文化や風情が感じられるよう、地域内外の人に対して城下町の魅力を伝えます。
・小京都といわれる所以である寺社、茶道、華道、書道、絵画などの文化を受け継いでいきます。

【魅力発信】

・地域内、あるいは地域とゆかりある「情報の達人たち」(情報発信に精通した者)による橋南の魅力発信を定期的に実施します。
・国際化に対応する多言語表示の看板や案内標識、案内冊子を整備します。
・小さな世界都市の中心として、案内力、発信力、場づくりを進化させた街を磨き上げていきます。

【文化交流機能】

・飯田駅を中心に文化施設やホテル、飲食店を充実させることで、文化の余韻を楽しめる地域を形成します。
・美術博物館、追手町小学校、赤門といった一連の文化遺産を文教地区として紹介するとともに、図書館、プラネタリウム、2 つの映画館等の文化施設を一体的に捉えて観光交流の拠点とします。

【祭りの伝承と交流、発信】

・祭りの伝承で地域内外のエネルギー発揮に繋がっています。橋南はこれからも、飯田下伊那の伝統文化を物心両面で支え、伝統文化の中心市であり続けます。

【祭事を通じた結びつき】

・大勢の人が祭りへ参加できるよう声を掛け合い、地域に住む人の顔が見える環境づくりに取り組みます。
・子ども世代へ伝えていけるよう、町内会の仕組みや氏子の子ども達の連携等、良い仕組みを共有し、将来の担い手確保に取り組みます。合わせて、女性の積極的な参加を呼び掛けます。
・祭事の賑わいが商店街の活性化と結びつくよう、一体的な活動に取り組みます。

【人形劇のまち いいだの活用】

・川本人形美術館や人形時計塔、番人モニュメントを活用して、人形劇の街の中心であることを地域内外、国内外に広く伝え続けます。

ゆめの実現に向けて

1 住民参加のりんご並木整備

・飯田東中学校りんご並木後援会を中心に、下伊那農業高校やりんご並木に花を植える会など近隣の人達の参画のもとに、美しい並木景観や物語を作り上げるための整備、活動をすすめます。

・東中卒業生を含めた観光客による作業応援の受入体制をつくり、作業後には焼肉などのイベントを開催するなど、楽しみながら作業できる環境を整えます。

2 お宝紹介マップ（ガイドブック）の作成と文化交流拠点の紹介

・橋南にしかない良いところ（例：お店、景色、歴史、自然等）や城下町の遺構などを地図に落とし込み、観光客など誰もが楽しいと思える地図やガイドブックを製作します。

・あわせて、これまで多数作成されている まちなか関連地図を参考に、これらを集約した統合型地図（ガイドブック）の作成を検討します。

・製作した地図を使って橋南を案内できる人を養成し、各種施設と連携した案内人の拠点を確保して、地図を使った観光案内やイベント、学校の社会見学を行います。

・マップの製作と案内人養成で、各種施設を一体的に活用した観光促進を図ります。

・文化の余韻が楽しめる文化交流拠点して、文化施設を中心にした JR 飯田駅周辺の再開発整備を飯田 5 地区の共通課題として要望しています。

3 桜並木や動物園、中央公園、扇町公園等と回遊性ある「りんご並木」の活用

・りんご並木を中心に、動物園や中央公園、扇町公園、蔵、美術博物館、赤門などを一体的に回遊できる仕組みをつくり、観光での活用を図ります。

・りんご並木の一部を公園化して、親子連れや足の不自由な人でも笑顔で過ごせる空間となるように検討します。

・橋南住民を対象にしたマルシェ、市場（いちば）を開催して、生鮮品や日用雑貨を買いに行く場となるよう検討します。

・桜並木と一体感ある並木にすることで、大きな飯田市のシンボルとなるよう、橋北、東野地区と連携、共有します。

4 情報の達人が行う橋南プロモーション

・情報発信に精通している住民、地区ゆかりの若者、専門家が、SNS などを利用した情報発信を行います。

5 祭り文化の伝承と祭り文化を活用した交流

・法被大紋や江戸時代の旧名を記載した看板を設置し、史跡と祭りのまちを広めます。

・次世代に祭り文化を伝承していけるよう、氏子による町内会の連絡方法や子ども・女性の連携について情報共有し、組織づくりの見直しと担い手の確保に取り組みます。

6 人形劇資産を活用した小さな世界都市としての発信

・小さな世界都市の交流中心地として、案内力、発信力、交流の場づくりを進化させた「街」の磨き上げを実施します。